

府盲通信 令和5年度より

「弁論が僕に教えてくれたこと」

僕は、自分の意見を明確に発信する大切さに気づきました。たとえ最初は何も変わらなくても、諦めずに、自分の思いを持ち続けることで、その分絶対に結果がついてくるからです。自分の信念を強く持ち、人の心を動かせる人間になれるよう、これからも努力していきます。

「校外学習を終えて」

今回の校外学習を通して、人生で初めてのパラグライダーに挑戦する前は、緊張とちゃんと飛ぶことができるかなという不安もありました。いざ、実際にやってみると自分が想像していたよりも難しく高さを維持し続けることや、バランスの取り方などに大変苦戦しました。ですが、友達と一緒に学ぶ楽しさや公共施設でのマナーなど普段はあまり感じない大切なことを学ぶきっかけになりました。

「寄宿舍に入って思うこと」

私は今年の春から寄宿舍に入ることになりました。ただ一つ人見知りな私が、他の生徒や先生達とうまく話せるかが心配でした。そんな思いとは裏腹に、はじめて泊まった日からみんなが話しかけてくれました。さすが関西の人達は違うと感じました。

私はこの学校に入学した目的の一つとして柔道を頑張ると決めていました。しかし、手の怪我もあり、入学してからなかなか練習ができずにいました。今ではそのおかげで、みんなとご飯を食べたりお風呂に入ったり、いろんな行事に参加して、みんなと仲良くなれたと思っています。これからは柔道と隙間時間の勉強で関わる事が少なくなると思います。だからこそ、みんなと関われる少ない時間を大切に過ごしていきたいと思っています。

「おめめの学校」

今年度、幼稚部に入園致しました。どのように見えづらく、どのように成長し生活しているのか、そして家族はどのようにサポートしていけばいいのか分からず、途方に暮れていた時、こちらの幼稚部の先生が、突然の電話にも関わらず、丁寧に優しくお話を聞いて寄り添って下さり、とても有難く、嬉しく、少し心を落ち着けることが出来ました。

週に一日の登園で、最初は娘も緊張していましたが、優しくて明るい先生方のおかげで、徐々に慣れ、楽しく過ごせるようになってきているようです。

幼稚部での時間を通して、見えにくさと上手に向き合いながら、元気に成長してくれたら、と願っています。